

60th Business Report

TK 高千穂交易株式会社
TAKACHIHO KOHEKI CO.,LTD.

証券コード 2676



第 **60** 期

株主の皆様へ

2010年4月1日▶2011年3月31日

Contents

私たちってこんな会社です！	1
ハイライト	2
トップインタビュー	3
セグメント別の概況	5
特集	7
TK NEWS FLASH	9
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

企業理念

技術商社として、「創造」を事業活動の原点に据え

- テクノロジーをとおして、お客様のご満足を高めます。
- 技能と人間性を磨き、世界に通用する信用を築きます。
- 力を合わせて、豊かな未来を拓き、社会に貢献します。

私たちがこんな会社です！

■ テクノロジー

「技術商社」として世界の先端技術商品を市場に提供し、顧客企業の価値向上を図っています。その土台となるのが、全社員の41%を占めるエンジニア系社員です。

■ トップシェア

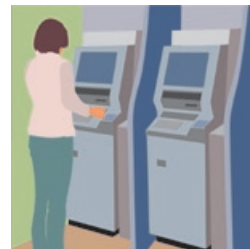
EAS（商品監視）システムや、ATM向けのスライドレール市場で、国内トップシェアを誇ります。豊富な経験・ノウハウを活かし世界でのシェア拡大を目指します。

■ NEWビジネス

持続的な成長サイクルの確立を図るため、新規（事業・市場・商品）の創出をテーマに活動を強化しています。

■ グローバル

米国・香港・上海のほか、新たに加わったバンコク（タイ）を拠点として、グローバルビジネスを本格的に推し進めます。



セグメント別：主要取扱い品目と売上構成比

システム

セキュリティ商品類

商品監視（万引き防止）システム、CCTVシステム、入店カウンターシステムなど

メーリング商品類

メールインサーティングシステム、インクジェットプリンター、ラベリングシステムなど

その他商品類

入退室管理システム、資産持出し防止システム、ネットワークセキュリティ関連機器、RFID図書館システムなど

デバイス

電子商品類

半導体、シリコンマイク、各種センサーなど

産機商品類

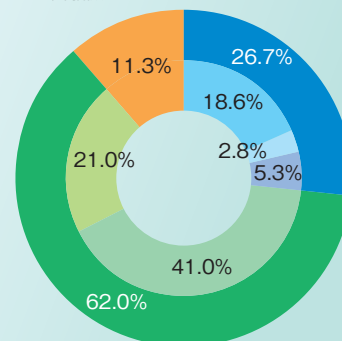
スライドレール、ガススプリング、昇降システムなど

カスタマ・サービス

システム機器の設置・保守などの顧客サポートサービス、コンサルティング、システム設計、システム運用委託など

セグメント別売上構成比

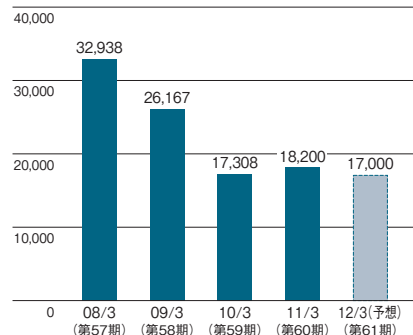
- システム
 - セキュリティ商品類
 - メーリング商品類
 - その他商品類
- デバイス
 - 電子商品類
 - 産機商品類
- カスタマ・サービス



連結財務ハイライト

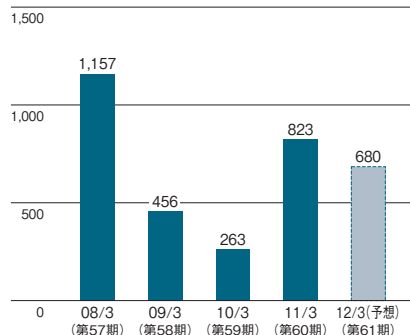
売上高

(単位：百万円)



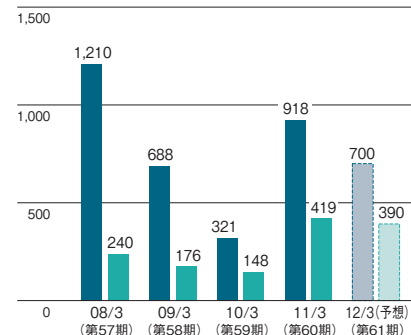
営業利益

(単位：百万円)



経常利益 当期純利益

(単位：百万円)



2011年3月期決算のポイント

売上高は前期比5.2%増

- 中国を中心とした海外向け製品の生産拡大などに伴い、産機商品類が好調に推移したことを主因に前年実績を上回る。
- 産機を除くその他の商品類については、概ね前年実績並みに推移。

損益分岐点引下げと増収効果により大幅増益

- 粗利益率の改善、販管費の削減により、損益分岐点を大幅に引き下げたことと、増収効果が相俟って大幅増益。

次期見通しのポイント

- ナショナルセミコンダクタージャパン社との販売代理店契約解消に伴う電子商品類の減収要因が大きく、全体でも減収計画。
- システムは、新製品の投入などにより増収計画。
- 独自の付加価値の追求により、粗利益率の改善に注力するものの、減収の影響が大きく減益計画。

2012年3月期 連結業績予想

売上高	17,000	百万円 (前期比 6.6%減)
営業利益	680	百万円 (前期比 17.4%減)
経常利益	700	百万円 (前期比 23.8%減)
当期純利益	390	百万円 (前期比 7.0%減)

TOP INTERVIEW



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

当社第60期(2010年4月1日から2011年3月31日まで)の事業活動の概況をご報告申し上げます。

2011年6月

代表取締役社長 戸田 秀雄

III Q 先ずは平成23年3月期業績の総括をお願いします。

平成23年3月期は、前年度から取り組んできた「収益基盤の再構築」に加え、新たに「新規(事業・市場・商品)の創出」を経営基本方針に掲げ、事業運営を行ってまいりました。

振り返ってみると、「収益基盤の再構築」という面では、粗利益率の改善や販管費の圧縮などにより、損益分岐点が大幅に引き下がり、その結果、今期大幅増益となったことは大きな成果と言えます。

また、「新規(事業・市場・商品)の創出」という面では、産機商品類において、新たに投入した新商品を軸に、遊技市場という新市場を立ち上げたことや、セキュリティ商品類において、EAS(商品監視システム)の未導入市場である食品スーパー市場で、システムの導入効果を実証でき、今後、横展開の可能性が広がったことも大いに評価ができます。

その他、リテールソリューション分野においては、録画映像を解析する「映像センシングサービス」や、レジ業務の効率化などを実現する「IQレーンシステム」といった新たな商品の効果検証が進んでおり、今後こうした商品が当社の収益源になることが期待できます。

もっとも、こうした成果が表れる一方、当社として認識しなければならぬ課題が残ったことも、また事実です。海外経済の回復を背景に、景気が持ち直してきたこの平成23年3月期。当社全体の売上高は前年対比で増収に転じたものの、内訳をみると産機商品類を除く他の商品類は、前年並みの実績に止まり、力強い事業成長を果たしたとは言えない結果でした。

今後、こうした反省点を踏まえ、より一層の強固な収益基盤を構築するとともに、事業成長を果たすための成長戦略を確実に実行していきたいと思います。

Q 平成24年3月期は、 どのような見通しですか。

平成24年3月期の計画は、売上高170億円、営業利益6億80百万円、経常利益7億円、当期純利益3億90百万円と、誠に遺憾ながら減収減益となる見通しです。

その要因といたしましては、電子商品類の仕入先であるナショナルセミコンダクタージャパン社との販売代理店契約を、平成23年3月末日をもって解消したことが、全体の業績に影響しています。なお、当社は既にナショナルセミコンダクタージャパン社に代わる新たなアナログ半導体メーカーとの販売代理店契約を締結しておりますが、平成24年3月期については、その減収全てをリカバーするには至らない状況です。

今後の電子商品類の事業方針としては、更なるサプライヤー開拓を進め、特長ある製品のラインアップを拡充するとともに、パワー系を中心としたアナログ製品、MEMEセンサー、通信系に特化し、高付加価値ビジネスを再構築していく所存です。

Q グローバル展開については どのように考えていますか。

当社は、この度新たに「グローバルビジネスの本格展開」を中期的な事業運営方針に掲げました。

具体的には、産機商品類で取り扱っている、国内ATM市場No.1シェアを誇る当社オリジナル商品の販路を海外市場へ拡大し、グローバルブランドとしての地位確立を目指してまいります。なお現在は、主に中国等、新興市場での販売体制強化を企図して、海外拠点の人員を増員するなど、グローバル化実現への体制整備を進めているところです。

また、子会社エスキューブが製造、販売するEASについては、既に当社の主要仕入先であるTyco/ADT社とアジア市場（中国、香港、韓国）において販売提携を行い、一部実績化が進んでおりますが、今後更なる実績の積み上げを図ってまいります。

さらに、上述の方針の一環として、先般タイ国においてセキュリティシステムや防災機器等の輸入販売を行うTyco Fire, Security & Services (Thailand) Ltd.を買収しました。この会社は、当社主要仕入先であるTyco Fire & Security Ltd.のタイ国における販売子会社であり、当社が国内で取り扱っている商品と同様のセキュリティシステムを取り扱っています。今後、買収した新会社を通じて、当社がこれまで日本で培ってきたセキュリティシステムの販売、導入ノウハウを活かし、現地ビジネスの拡大に努め、将来的にはASEAN地区での事業拡大を狙っていきたいと考えています。

Q 株主還元策についての考え方を 教えてください。

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置づけ、安定・継続的な配当の実施を基本方針としており、今期については昨年度と同様の年間24円（うち、中間期12円配当）の配当とすることといたしました。

一方、株主優待については、株主の皆様の当社事業へのご理解とご支援に感謝の意を表して、中間期、期末にそれぞれ「お米券」3kg分をお配りしておりましたが、配当と優待とのバランスなど株主様への利益還元のあり方について、検討を重ねた結果、期末1回とすることといたしました。ご理解の程、よろしくごお願い申し上げます。

セグメント別の概況

システム：設備投資が停滞する中、リプレイスと新規開拓に注力

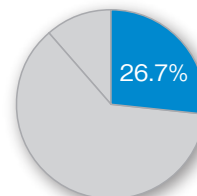
デバイス：産機商品類の中国向け部品販売が進む

カスタマ・サービス：システム機器の納入・設置案件が増加

システム 売上高は前期比2.6%増の48億66百万円、営業利益は50百万円

売上高 **48億66百万円**
営業利益 **50百万円**

前期比 **▲ 2.6%**
前期 △2億8百万円より黒字転換 **▲**



● セキュリティ商品類 ● メーリング商品類
● その他商品類 (単位：百万円)



セキュリティ商品類(前期比 2.6%増)

前年度に高伸した輸出向け製品に内蔵される防犯タグの販売が低調に推移しましたが、主力のGMS(大手総合スーパーマーケット)市場での販売が徐々に持ち直してきたほか、ドラッグストア市場における競合他社製品の大型リプレイス案件の獲得などから、売上高は前期比2.6%増の33億91百万円となりました。



メーリング商品類(前期比 13.4%減)

セキュリティ機能付き高速インクジェットプリンターの販売が好調に推移しましたが、主力のメールインサーティング・システムの販売が振るわず、売上高は前期比13.4%減の5億10百万円となりました。



その他商品類(前期比 14.0%増)

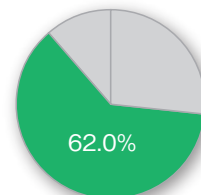
外資系企業を中心にオフィスセキュリティ関連投資を再開する動きが見られる中、入退室管理システムの大型案件獲得などから、売上高は前期比14.0%増の9億64百万円となりました。

デバイス

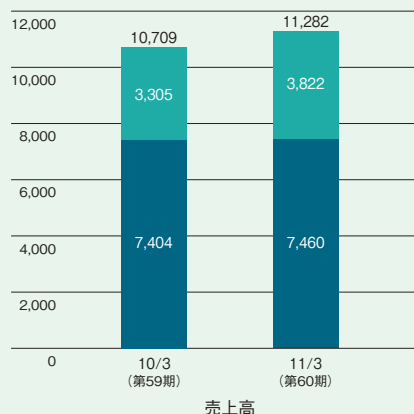
売上高は前期比5.4%増の112億82百万円、営業利益は前期比2.3倍の6億45百万円

売上高 **112億82百万円**
営業利益 **6億45百万円**

前期比 **↑ 5.4%**
前期比 **↑ 131.1%**



○ 電子商品類 ○ 産機商品類 (単位：百万円)



電子商品類(前期比 0.8%増)

パソコンなどの民生品向け半導体の販売が低調に推移しましたが、重点市場として位置づけている産業機器向け半導体の販売などが好調に推移したことから、売上高は前期比0.8%増の74億60百万円となりました。



産機商品類(前期比 15.6%増)

中国向けを中心とした主力のATM(現金自動預け払い機)向けや、住宅設備機器向け機構部品の販売が好調に推移したほか、新たに遊技市場向けの販売が立ち上がったことなどから、前期比15.6%増の38億22百万円となりました。

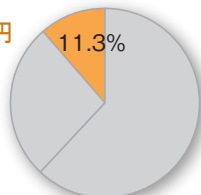


カスタム・サービス

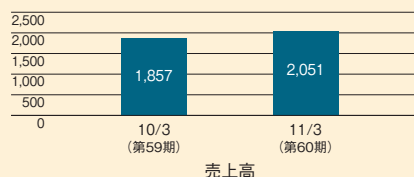
売上高は前期比10.4%増の20億51百万円、営業利益は前期比28.9%減の1億35百万円

売上高 **20億51百万円**
営業利益 **1億35百万円**

前期比 **↑ 10.4%**
前期比 **↓ △ 28.9%**



○ カストマ・サービス (単位：百万円)



引き続き保守契約更新を見送る動きが見られましたが、商品監視システムや入退室管理システムなどの納入・設置案件が増加したことなどから、売上高は前期比10.4%増の20億51百万円、営業利益は前期比28.9%減の1億35百万円となりました。



タイのセキュリティシステム販売会社を買収 「日本品質」を武器に、現地での事業拡大を目指す

当社は、中期的な成長戦略として、「グローバルビジネスの本格展開」を基本方針に掲げ、その実現に取り組んでいます。

その一つとして、当社は、2011年5月にタイ国においてセキュリティシステムおよび防災機器等の輸入販売を行う、Tyco Fire, Security & Services (Thailand) Ltd.を買収いたしました。

この会社は、当社の主要仕入先である米国Tyco Fire & Security Ltd.のタイにおける販売子会社で、当社が取り扱っ

ている万引き防止システムや、入退室管理システムなどのセキュリティシステムのほか、火災消火機器といった防災システムの販売も展開しています。

近年タイは、著しい経済成長を遂げており、今後もその成長が持続すると予想されるなど、東南アジア諸国連合（ASEAN）の経済拠点

として、大きなマーケットになることが期待されています。

拡大が見込まれるこのタイ市場において、当社は、日本国内で40年間に亘り培っ

たセキュリティシステムの販売・導入ノウハウを活かし、日本から進出する日系企業やローカル企業向けに、安全・安心な「日本品質」のサービスを提供し、事業成長を果たしていきたいと考えています。また、本件を、セキュリティビジネスのグローバル展開の足掛かりとし、近い将来には、ASEAN地域での更なる販路拡大を目指してまいります。



Takachiho Fire, Security & Services (Thailand) Ltd. 本社（バンコク）



役員一同：オフィスにて

『ラミネートバスバー』が、医療・インフラ関連市場で、続々採用

当社の電子プロダクトでは、産業機器や社会インフラ市場をターゲットとした販売活動を推し進めていますが、その一環として、同市場の幾つかのアプリケーションを抽出し、当該アプリケーションで高いシェアを有する企業に集中的にアプローチを図る「アプリケーション・セグメント・セールス」を、2009年度より積極的に展開してきました。

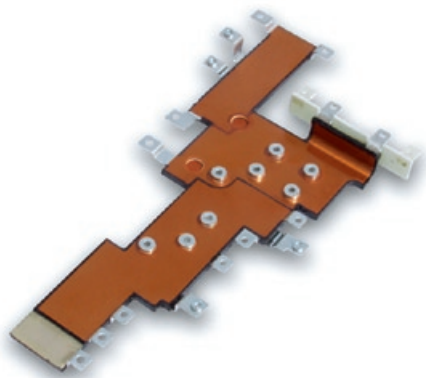
そうした活動の成果として、当社が2009年度に取扱いを開始したメソッド社の『ラミネートバスバー』が、CTスキャナーやMRI、X線装置をはじめとした医療機器市場や、発電所向けの電力保護システムなどのインフラ関連市場において続々と採用され、量産がスタートしました。

このバスバーは、銅製で帯板の形状をしており、主に「電源ケーブル」の代替として、大電圧・大電流システムなどに使用さ

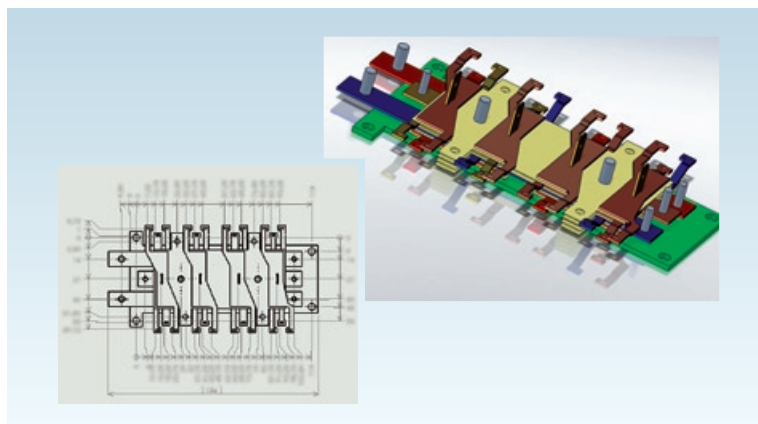
れる給電板です。特長としては、冗長なケーブルに比べて、スペース効率や設計自由度が高いため、コンパクトな実装が可能となるほか、表面積が大きいため、放熱効果が高く、機器の省エネルギー化や効率化などに貢献します。

通常、電力供給システムでは、お客様の仕様に合わせたきめ細やかなカスタマイズ設計が重要ですが、当社ではお客様に対する提案力やスピード力を高めるため、商社では珍しい「3次元-CAD」を新たに導入し、社内でのカスタム設計を可能としました。

今後も、FAE（フィールド・アプリケーション・エンジニア）による技術サポートなど、「技術商社」としての高度なノウハウと経験を活かし、競合他社との差別化を図りながら、ビジネスを拡大してまいります。



ラミネートバスバー製品例



設計図と3D-CADデータ



NEWS FLASH

小売業向けに映像センシングによる販促支援サービスの取扱いを開始 店舗の戦略的な販売・展示計画に高い効果を発揮

昨今、小売業では、競争の激化に伴い、「十分な数のターゲット顧客が来店しているか」、「顧客がどのようなプロセスで購買（非購買）を決定したのか」といった情報を把握し、より効率的な店舗運営を行うことが重要視されています。

そのような中、当社では、カメラと分析ソフトの併用によって、防犯用に録画した店舗内の映像を、販売促進の観点からネットワークを介してコンピュータ解析し、その分析結果をリアルタイムに提供する、クラウド型の映像センシングサービスの取扱いを開始しました。

映像センシングによる販促支援サービスは、第一弾として『男女年齢識別サービス』や、『店内行動（棚寄付き）計測サービス』など、各小売業のニーズに合わせたラインアップを用意しました。これにより、店舗側は“見える化”された来店客情報や、顧客ニーズに適応した店舗運営を行うことができるのです。

当社は、店舗を訪れるお客様が快適にショッピングを楽しめるよう、小売業の店舗運営や売場づくりに最適なサービスを提案し続けていきます。



●『男女年齢識別サービス』とは？

店舗の入口にカメラを設置し、その映像から来店客の性別や年齢層をリアルタイムに判定。



店舗側は、その来店客層に沿った商品の選択・陳列・タイムセール等を、より効果的に実施することが可能。

●『店内行動（棚寄付き）計測サービス』とは？

陳列棚・什器近辺に設置したカメラの映像を分析し、来店客が陳列商品に接触した時間や頻度をリアルタイムに計測。



店舗側は、陳列商品の人気度合いと実際の売上との比較や、来店客の導線を意識した展示など、具体的な販売計画の立案が可能。

「お客様を待たせない」チェックアウトマネジメントシステムの販売スタート —『IQレーン』が、「レジ待ち行列の解消」・「レジ業務の効率化」に貢献—

皆様は、スーパーマーケット等での買い物の際、レジでの会計に長時間待たされ、不満を感じた経験はありませんか？ある調査によると半数以上のお客様は、レジ待ち時間が3分を超すとイライラすると答え、その解消を望んでいます。

しかしながら、店舗側は人件費やスペースの関係上、むやみにレジ台数を増やすことは困難で、昨今、「レジでのオペレーション改善」は、店舗にとって大変重要な課題となっています。

そうした問題を解決するため、当社では、「お客様を待たせない」レジサービスを実現する、チェックアウトマネジメントシステム『IQレーン』を市場に投入しました。

『IQレーン』は、店舗の入口やレジの天井部に設置したサーモ（赤外線）センサーによって、入店客数やレジ待ち客数をカウントし、それらのデータとレジの開閉・精算状況などを照合することで、稼動すべきレジ台数を的確に予測することができます。そのため店舗側は、レジが混雑する前に必要な数のレジを開放（閉鎖）し、「お客様を待たせない」レジサービスを実現できるというわけです。

『IQレーン』を導入することによって、店舗側はお客様満足度を向上させ、結果として、お客様の定着による売上UPに期待が持てるほか、レジ稼働時間の無駄も明確になるため、効率的な人員配置が可能となるなど、大幅なオペレーションコストの削減をも図ることができます。

株主の皆様が、日頃ご利用になるスーパーのレジ待ち行列を、当社の『IQレーン』が解消する日もそう遠くないかもしれません。



カメラ型サーモセンサー
(IRISYS社製)



レジ管理担当者が携帯する
無線端末（PDA）

レジ待ち予測情報を
リアルタイムに
送信します！



連結財務諸表

連結貸借対照表

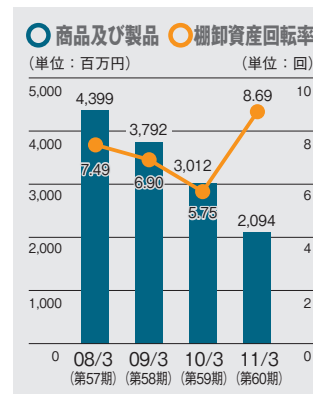
(単位：百万円)

科 目	第60期 2011年3月31日現在	第59期 2010年3月31日現在	前期比 (%)	増減
(資産の部)				
流動資産	14,949	15,322	△2.4	△373
現金及び預金	6,742	6,093	10.7	649
受取手形及び売掛金	5,282	5,095	3.7	187
商品及び製品	2,094	3,012	△30.5	△918
固定資産	2,371	2,046	15.9	325
有形固定資産	511	608	△16.1	△97
無形固定資産	133	62	114.8	71
投資その他の資産	1,726	1,375	25.6	351
資産合計	17,321	17,369	△0.3	△48
(負債の部)				
流動負債	2,855	2,944	△3.0	△89
支払手形及び買掛金	1,830	2,107	△13.1	△276
固定負債	894	975	△8.3	△81
負債合計	3,749	3,920	△4.4	△171
(純資産の部)				
株主資本	13,587	13,410	1.3	176
資本金	1,193	1,193	—	—
資本剰余金	1,156	1,156	—	—
利益剰余金	11,255	11,078	1.6	176
自己株式	△18	△18	0.1	△0
その他の包括利益累計額	△26	33	—	△60
純資産合計	13,571	13,448	0.9	122
負債純資産合計	17,321	17,369	△0.3	△48

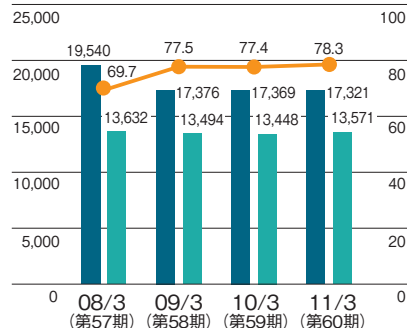
(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

CHECK POINT !

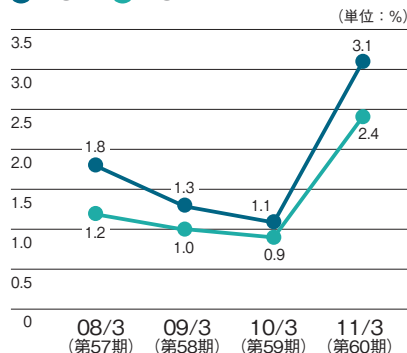
商品及び製品を前期末から9億18百万円(30.5%)圧縮しました。この結果、棚卸資産回転率(=売上高÷商品及び製品)は前期の5.75回から8.69回に大幅に上昇しました。なお、これに伴い、現金及び預金が前期末に比べ6億49百万円増加し、67億42百万円となりました。



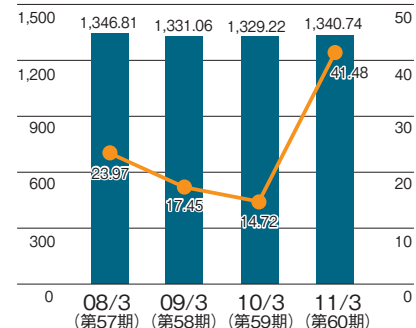
総資産 純資産 自己資本比率 (単位：百万円) (単位：%)



ROE ROA (単位：%)



1株あたり純資産 1株あたり当期純利益 (単位：円)



■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第60期 2010年4月 1 日から 2011年3月31日まで	第59期 2009年4月 1 日から 2010年3月31日まで
売上高	18,200	17,308
売上原価	13,616	13,062
売上総利益	4,583	4,245
販売費及び一般管理費	3,760	3,982
営業利益	823	263
営業外収益	97	61
営業外費用	3	3
経常利益	918	321
特別利益	1	36
特別損失	155	41
税金等調整前当期純利益	764	316
法人税、住民税及び事業税	228	110
法人税等調整額	115	57
少数株主損益調整前当期純利益	419	—
当期純利益	419	148

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第60期 2010年4月 1 日から 2011年3月31日まで	第59期 2009年4月 1 日から 2010年3月31日まで	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	1,368	1,964	△596
投資活動による キャッシュ・フロー	△455	△875	419
財務活動による キャッシュ・フロー	△246	△266	20
現金及び現金同等物の 増減額	649	824	△175
現金及び現金同等物の 期首残高	5,593	4,769	824
現金及び現金同等物の 期末残高	6,242	5,593	649

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

CHECK POINT !

- 売上総利益率は25.2%と、前期の24.5%から0.7ポイント上昇しました。
- 販売管理費は前期の39億82百万円から37億60百万円へと2億21百万円削減しました。この結果、販管費率は20.7%と前期から2.3ポイント低下しました。

CHECK POINT !

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が7億64百万円になったことに加え、棚卸資産の減少9億16百万円があったことから、13億68百万円のプラスとなりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還が1億60百万円あった一方で、投資有価証券の取得による支出が5億円あったことにより、4億55百万円のマイナスとなりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払2億42百万円により、2億46百万円のマイナスとなりました。

会社情報 (2011年6月28日)

■ 会社概要

設 立	1952年3月
資 本 金 (2011年3月31日現在)	11億9,381万円
従 業 員 数 (2011年3月31日現在)	276名 (単体)、331名 (連結)
取引金融機関	みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行
主 要 業 務	セキュリティシステム、情報ネットワークシステム、ICタグ応用システム、半導体及び機構部品等の輸出入及び販売・据付・保守サービス並びにシステム設計・システム運用受託等サービス
ホームページ	http://www.takachiho-kk.co.jp/

■ 事業所

本 社	東京都新宿区四谷1丁目2番8号 Tel.03-3355-1111(代)
大 阪 支 店	大阪市北区梅田3丁目3番20号 (明治安田生命大阪梅田ビル) Tel.06-6453-1610(代)
名 古 屋 支 店	名古屋市中村区名駅南1丁目21番19号 (本州名駅ビル) Tel.052-582-2915(代)
札 幌 営 業 所	札幌市中央区北一条東1丁目4番地1号 (サン経成ビル) Tel.011-223-3552(代)
九 州 営 業 所	福岡市博多区店屋町8番24号 (九勤呉服町ビル) Tel.092-271-6759(代)
サ ー ビ ス 網	全国300カ所
米 国 駐 在 員 事 務 所	1400 Fashion Island Blvd. Suite 304, San Mateo, CA, 94404 U.S.A Tel.650-574-3224

■ 取締役・監査役

取 締 役 会 長	山 村 秀 彦
代表取締役社長兼社長執行役員	戸 田 秀 雄
取 締 役 兼 執 行 役 員	小 原 敬 一
取 締 役 兼 執 行 役 員	広 木 邦 昭
取 締 役	田 代 守 彦 ※
取 締 役	松 谷 東 一 郎 ※
常 勤 監 査 役	武 智 良 泰
監 査 役	柴 崎 伸 雄 ※※
監 査 役	小 海 正 勝 ※※
監 査 役	石 原 良 一 ※※

(注) ※は社外取締役です。※※は社外監査役です。

■ 執行役員

常 務 執 行 役 員	山 本 茂
執 行 役 員	赤 堀 寛 人
執 行 役 員	横 戸 憲 一
執 行 役 員	平 山 英 樹
執 行 役 員	平 田 嘉 昭
執 行 役 員	市 川 陽 三

■ 連結子会社

株式会社エスキューブ	
事業内容	電子機器による盗難防止及び防犯管理システムの開発及び製造並びに販売
高千穂コムテック株式会社	
事業内容	メーリングシステムの輸出入及び販売並びに開発・サポート・サービス
ジェイエムイー株式会社	
事業内容	各種電子部品の輸出入及び販売
TAKACHIHO KOHEKI (H.K.) Ltd.	
事業内容	各種電子部品及び機構部品並びにセキュリティ機器の輸出入及び販売
提凱貿易 (上海) 有限公司	
事業内容	各種電子部品及び機構部品の輸出入及び販売
Takachiho Fire, Security & Services (Thailand) Ltd.	
事業内容	セキュリティシステム、防災用機器等の輸入及び販売・据付・保守サービス

株式情報 (2011年3月31日)

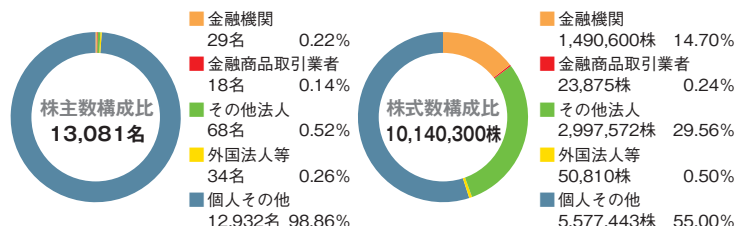
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	10,140,300株
株主数	13,081名

大株主

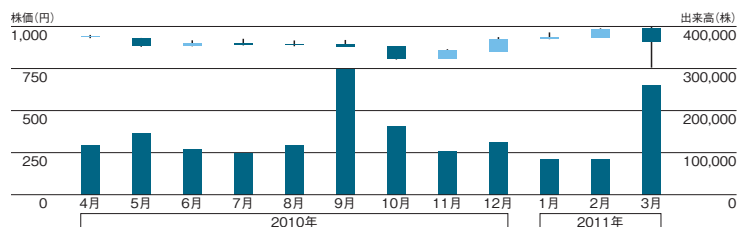
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社マースエンジニアリング	804,000	7.92
セコム株式会社	450,000	4.43
栃本京子	417,800	4.12
日立オートモティブシステムズ株式会社	380,000	3.74
株式会社みずほコーポレート銀行	300,600	2.96
山村秀彦	266,000	2.62
株式会社マーステクノサイエンス	265,000	2.61
竹田和平	260,000	2.56
佐々木豊実	240,000	2.36
今福邦彦	221,900	2.18

(注) 持株比率は、小数第3位以下を切捨てて表示しております。

株式分布状況



株価・出来高の推移



株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金 3月31日
受領株主確定日
- 中間配当金 9月30日
受領株主確定日 (中間配当を実施する場合)
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711
(通話料無料)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

特別口座に記録された株式に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等)のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。
TEL : 0120-244-479 (通話料無料)
インターネットアドレス : <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.takachiho-kk.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
- 1単元の株式数 100株
- 株主優待制度 毎年3月末時点で100株以上保有している株主様に一律お米券3kg分を贈呈

第60回定時株主総会決議ご通知

平成23年6月28日開催の当社第60回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

1. 第60期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）事業報告及び連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第60期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）計算書類報告の件
本件は、その内容について報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案：剰余金の処分の件は、原案のとおり承認可決されました。
第2号議案：取締役1名選任の件は、原案のとおり承認可決されました。
第3号議案：監査役2名選任の件は、原案のとおり承認可決されました。

第60期期末配当金のお支払いについて

第60期期末配当金は、1株につき12円と決定いたしましたので、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたします。つきましては、払渡期間内（平成23年6月29日から平成23年7月29日まで）に、最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

既に口座振込をご指定の方には、「期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」を同封いたしましたので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社は、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2676

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶ と4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900（平日 10:00～17:30）MAIL:info@e-kabunushi.com



高千穂交易株式会社
TAKACHIHO KOHEKI CO.,LTD.

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2番8号

TEL 03-3355-1111（代）

URL <http://www.takachiho-kk.co.jp/>



本冊子は、環境保全
のため再生紙を使用
し、植物油インキで
印刷しています。